

広告・メディア・エンタテインメント

1. 評価対象企業（18社）

博報堂DYホールディングス、コーエーテクモホールディングス、ネクソン、電通グループ、オリエンタルランド、フジ・メディア・ホールディングス、リクルートホールディングス、セガサミーホールディングス、バンダイナムコホールディングス、任天堂、TBSホールディングス(注)、日本テレビホールディングス、テレビ朝日ホールディングス、東宝、エイチ・アイ・エス（新規）、スクウェア・エニックス・ホールディングス、カプコン、コナミホールディングス

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）東京放送ホールディングスが商号を変更した（2020年10月）。

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	2	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	25
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	2	15
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	2	15
計		10	100

（注）評価項目の内容および配点は142頁参照

(2) 評価実施アナリストは33名（所属先27社）である。（143頁参照）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」（141頁）参照）

- ① 本年度は、評価項目の整理・統合化を目的として、評価分野全般において、項目の内容変更または配点変更（内容変更を含む）または項目削除を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は67.3点（昨年度64.8点）、総合評価点の標準偏差は7.9点（昨年度8.0点）となった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、広告・メディア（8社：博報堂DYホールディングス、電通グループ、フジ・メディア・ホールディングス、リクルートホールディングス、TBSホールディングス、日本テレビホールディングス、テレビ朝日ホールディングス、東宝）63.1点（昨年度63.1点）、エンタテインメント（10社：コーエーテクモホールディングス、ネクソン、オリエンタルランド、セガサミーホールディングス、バンダイナムコホールディングス、任天堂、エイチ・アイ・エス、スクウェア・エニックス・ホールディングス、カプコン、コナミホールディングス）70.6点（昨年度66.8点）となり、業態間の格差は拡大した。
- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点/配点（以下省略））を見ると、経営陣のIR姿勢等が71%（昨年度66%）、説明会等が73%（昨年度70%）、フェア・ディスクロージャーが74%（昨年度75%）、

コーポレート・ガバナンス関連が 59%（昨年度同率）、自主的情報開示が 53%（昨年度 39%）となった。昨年度に比べ、自主的情報開示が大幅に上昇したことから、分野間の格差は縮小したものの、同分野は依然として他の分野より低水準となっている。

④ 評価項目について見ると、平均得点率 80%以上はなく、全 10 項目中次の 4 項目において、70%以上となった。

- (a) 「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか」（平均得点率 79% [昨年度 85%]）（得点率（評価点/配点（以下省略））：80%8 社・70%台 10 社）
- (b) 「IR 部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR 担当者とは有益なディスカッションができていますか」（平均得点率 78%）（得点率：80%台 6 社・70%台 10 社・69%2 社）
- (c) 「決算説明会やインタビューにおける会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。」（平均得点率 73% [昨年度 69%]）（得点率：80%台 4 社・70%台 7 社）
- (d) 「説明資料等（決算説明資料を含む）で、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な主要項目（各事業の KPI 等）の実績および見通しは、十分かつ継続性を持って開示されていますか。また、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な情報（経営環境、事業戦略、資本政策等）が、分かりやすくかつ十分に記載されていますか」（平均得点率 73% [昨年度 71%]）（得点率：80%台 4 社・70%台 9 社）

⑤ 一方、次の 2 項目は、平均得点率が 50%台以下で、低水準となった。

- (e) 「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IR デーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益でしたか」（平均得点率 44% [昨年度 39%]）（得点率：27%2 社・30%台 7 社、40%台 4 社）
- (f) 「役員報酬や政策保有株式等に係る経営方針を説明し、それらの情報を十分に開示していますか」（平均得点率 57%）（得点率：40%台 5 社・50%台 4 社）

⑥ なお、非財務情報関連の次の項目（自主的情報開示の中の 1 項目）については、次のとおりとなった。

- ・ 「非財務情報（ESG 情報、統合報告書等）の開示に積極的に取り組んでいますか」（平均得点率 62%）（得点率：40%台 1 社・50%台 9 社・60%台 1 社・70%台 6 社・80%台 1 社）

⑦ 評価実施アナリストより、複数の企業に対して、with / after コロナの経営戦略スタイルについて説明機会を望む声が寄せられた。

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 オリエンタルランド（ディスクロージャー優良企業 [2 年連続 2 回目]、総合評価点 81.5 点 [昨年度比 +2.5 点]

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（得点率（以下省略）85%）、自主的情報開示（82%）が第 1 位、説明会等（83%）、フェア・ディスクロージャー（82%）が第 2 位、コーポレート・ガバナンス関連が同得点第 3 位（69%）となった。昨年度に比べ、コーポレート・ガバナンス関連を除く 4 分野の得点率が改善し、総合評価点の上昇につながった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣が、IR 活動（例えば、IR 対応組織を整備したり、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策を積極的に説明していること）に注力していること、また、経営陣が、IR 活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていること」および「IR 部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR 担当者とは有益なディスカッションができていること」が共に最も高い評価となった。これらの結果、この分野で第 1 位の評価となった。これに関し、IR 体制の充実（具体的には IR 担当者間の情報共有、チームによる決算対応シミュレーションの仕組み化等の実践）やトッ

プミーティングの開催を評価する声が寄せられた。

- ③ **説明会等**においては、「説明資料等（決算説明資料を含む）で、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な主要項目（各事業の KPI 等）の実績および見通しが、十分かつ継続性を持って開示されていること、また、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な情報（経営環境、事業戦略、資本政策等）が、分かりやすくかつ十分に記載されていること」が最も高い評価となった。加えて、「決算説明会やインタビューにおける会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」も評価された。これらの結果、この分野で第 2 位の評価となった。なお、第 1・第 3 四半期決算の情報開示の充実や月次入園者数開示の再開を望む声が寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていること」が最も高く評価された。また、「アナリスト・投資家にとって重要と判断される事項（例えば、月次売上高および重要指標の月次動向、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A 等）の開示が、迅速かつ十分であること」も評価された。これらの結果、この分野で第 2 位の評価となった。これに関し、フェア・ディスクロージャーに対する意識の高さを評価する声が寄せられた。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明していること」が評価された。また、「役員報酬や政策保有株式等に係る経営方針を説明し、それらの情報を十分に開示していること」は同得点第 4 位となった。この点に関し、大株主の関係者が社外取締役であることについて、十分な説明が求められるとの声が寄せられた。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IR データや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」が第 2 位に大差（26 ポイント）をつけた。これに関し、事業説明会や施設見学会を評価する声が寄せられた。また、「非財務情報（ESG 情報、統合報告書等）の開示に積極的に取り組んでいること」も他社と共に第 2 位となった。これらの結果、この分野で第 1 位となった。
- ⑦ 以上に加え、コロナ禍の休園時のコストの説明、資金繰りに関する説明が充実していたとの声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 セガサミーホールディングス（総合評価点 77.0 点〔昨年度の評価結果については非公表〕（注）

- ① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（85%）、**自主的情報開示**（70%）が第 2 位、**コーポレート・ガバナンス関連**が同得点第 3 位（69%）、**説明会等**が第 6 位（78%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 13 位（70%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣が、IR 活動（例えば、IR 対応組織を整備したり、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策を積極的に説明していること）に注力していること、また、経営陣が、IR 活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていること」がトップと僅差の第 2 位となった。また、「IR 部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR 担当者とは有益なディスカッションができていくこと」が高く評価された。これらの結果、この分野で第 2 位の評価となった。なお、マネジメントミーティングや IR 部門の対応力を高く評価する声が寄せられた。
- ③ **説明会等**においては、「説明資料等（決算説明資料を含む）で、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な主要項目（各事業の KPI 等）の実績および見通しが、十分かつ継続性を持って開示されていること、また、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な情報（経営環境、事業戦略、資本政策等）が、分かりやすくかつ十分に記載されていること」が同得点第 5 位となった。また、「決算説明会やインタビューにおける会社側の説明および質疑応答は十分に満足できること」は、第 8 位にとどまった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、2 項目共に平均得点率に達しなかった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「役員報酬や政策保有株式等に係る経営方針を説明し、それらの情報を十分に開示していること」が最も高い評価となった。一方、「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明していること」については同得点第 9 位（トップと 19 ポイント差）にとどまった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「非財務情報（ESG 情報、統合報告書等）の開示に積極的に取り組んでいること」がトップと僅差の同得点第 2 位となった。また、「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を

紹介する機会（IR デーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」も同得点第 2 位となった。これに関し、遊技機、ゲームの責任者による説明や施設見学会を評価する声が寄せられた。
（注）昨年度は、評価者数が一定数に達しなかったため、非公表となった。

第 3 位 博報堂 D Y ホールディングス（総合評価点 76.2 点〔昨年度比+1.4 点〕、昨年度第 3 位）

- ① 同社は、説明会等(83%)、フェア・ディスクロージャー(90%)が第 1 位、経営陣の IR 姿勢等が第 5 位(79%)、コーポレート・ガバナンス関連が同得点第 5 位(66%)、自主的情報開示が第 6 位(59%)となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR 担当者と有益なディスカッションができていくこと」が高く評価された。なお、「経営陣が、IR 活動（例えば、IR 対応組織を整備したり、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策を積極的に説明していること）に注力していること、また、経営陣が、IR 活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていること」については、第 6 位にとどまった。
- ③ 説明会等においては、「決算説明会やインタビューにおける会社側の説明および質疑応答は十分に満足できること」が最も高く評価された。加えて、「説明資料等（決算説明資料を含む）で、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な主要項目（各事業の KPI 等）の実績および見通しが、十分かつ継続性を持って開示されていること、また、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な情報（経営環境、事業戦略、資本政策等）が、分かりやすくかつ十分に記載されていること」もトップと僅差であった。これらの結果、この分野で第 1 位の評価となった。これらに関し、説明会資料の質・量や月次開示の継続等を評価する声が寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、2 項目共に単独または同得点の第 1 位となった。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明していること」が第 5 位、「役員報酬や政策保有株式等に係る経営方針を説明し、それらの情報を十分に開示していること」が第 8 位にとどまった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「非財務情報（ESG 情報、統合報告書等）の開示に積極的に取り組んでいること」が第 5 位となった。一方、「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IR デーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」については、平均得点率に達しなかった。これに関し、決算説明会以外の IR イベント（例えば、デジタル戦略に関する説明会）を期待する声が寄せられた。

以 上

2020年度 ディスクロージャリー評価比較総括表 (広告・メディア・エンタテインメント)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス 評価項目2 (配点 35点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目2 (配点 25点)		3. フェア・ディスク ロージャー 評価項目2 (配点 10点)		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示 評価項目2 (配点 15点)		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示 評価項目2 (配点 15点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4661 オリエンタルランド	81.5	29.9	1	20.7	2	8.2	2	10.4	3	12.3	1	1
2	6460 セガサミーホールディングス	77.0	29.6	2	19.5	6	7.0	13	10.4	3	10.5	2	
3	2433 博報堂DYホールディングス	76.2	27.6	5	20.8	1	9.0	1	9.9	5	8.9	6	3
4	7832 バンダイナムコホールディングス	74.8	26.7	7	19.7	3	7.0	13	11.4	1	10.0	3	4
5	9697 カブコン	74.2	28.5	3	19.6	5	7.2	10	9.7	8	9.2	5	5
6	7974 任天堂	72.4	28.0	4	19.3	7	7.5	5	9.9	5	7.7	10	8
7	4324 電通グループ	70.4	26.0	8	18.5	9	7.6	4	9.8	7	8.5	7	6
8	3635 コーエーテックモホールディングス	70.2	25.6	9	19.7	3	7.4	8	9.6	9	7.9	9	7
9	9684 スクウェア・エニックス・ホールディングス	68.9	26.8	6	19.0	8	7.5	5	9.4	10	6.2	15	9
10	6098 リクルートホールディングス	68.2	22.4	12	18.5	9	6.7	17	10.6	2	10.0	3	2
11	9603 エイチ・アイ・エス	66.3	23.9	11	18.4	11	7.4	8	8.4	11	8.2	8	未実施
12	3659 ネットソン	62.4	24.0	10	17.4	13	6.6	18	8.2	12	6.2	15	11
13	9404 日本テレビホールディングス	59.0	21.3	16	17.0	14	7.1	11	6.8	15	6.8	11	13
14	9602 東宝	58.8	20.5	18	18.1	12	7.7	3	6.1	18	6.4	14	10
15	9766 コナミホールディングス	58.7	21.5	14	16.2	15	6.9	15	8.1	13	6.0	18	17
16	4676 フジ・メディア・ホールディングス	58.4	22.2	13	15.4	17	7.1	11	7.0	14	6.7	12	14
17	9409 テレビ朝日ホールディングス	57.8	21.5	14	15.8	16	7.5	5	6.8	15	6.2	15	15
18	9401 TBSホールディングス	55.8	21.0	17	14.6	18	6.9	15	6.7	17	6.6	13	16
	評価対象企業評価平均点	67.28	24.83		18.23		7.35		8.85		8.02		

2020年度評価項目および配点(広告・メディア・エンタテインメント)

【評価対象期間:2019年7月～2020年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (35点)	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が、IR活動に注力していますか。例えば、IR対応組織を整備したり、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策を積極的に説明していますか。また、経営陣は、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に生かしていますか。	20
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
・IR部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR担当者とは有益なディスカッションができていますか。	15
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (25点)	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・決算説明会やインタビューにおける会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	15
(2)説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示	
・説明資料等(決算説明資料を含む)で、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な主要項目(各事業のKPI等)の実績および見通しは、十分かつ継続性を持って開示されていますか。また、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な情報(経営環境、事業戦略、資本政策等)が、分かりやすかつ十分に記載されていますか。	10
3. フェア・ディスクロージャー (10点)	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか。	5
(2)タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・アナリスト・投資家にとって重要と判断される事項(例えば、月次売上高および重要指標の月次動向、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A等)の開示は、迅速かつ十分でしたか。	5
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 (15点)	配点
(1)資本政策、株主還元策等の開示	
・資本政策、株主還元策、キャッシュの用途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていますか。	8
(2)政策保有株式等に係る情報の開示	
・役員報酬や政策保有株式等に係る経営方針を説明し、それらの情報を十分に開示していますか。	7
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (15点)	配点
①会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会(IRデーや記者発表会等を含む)を投資家向けにも設けており、それは有益でしたか。 [過去1年間を目安に評価]	7
②非財務情報(ESG情報、統合報告書等)の開示に積極的に取り組んでいますか。	8

広告・メディア・エンタテインメント専門部会委員

部会長	前田 栄二	SMBC 日興証券
部会長代理	城戸 謙治	アセットマネジメント One
	石原 太郎	大和証券
	大場 剛平	野村アセットマネジメント
	岸本 晃知	みずほ証券
	樋口 夏子	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	山村 淳子	野村証券

評価実施アナリスト（33名）

浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	鈴木 崇生	大和証券
石井 孝一郎	三菱 UFJ 信託銀行	鶴尾 充伸	シティグループ証券
石橋 剛	三井住友 DS アセットマネジメント	寺島 正	大和アセットマネジメント
石原 太郎	大和証券	長尾 佳尚	野村証券
板倉 充知	SOMPO アセットマネジメント	中川 雅嗣	三菱 UFJ 国際投信
上野 賢司	SOMPO アセットマネジメント	中島 智也	丸三証券
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	永田 和子	QUICK
大場 剛平	野村アセットマネジメント	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
小口 琢也	野村アセットマネジメント	樋口 夏子	三井住友トラスト・アセットマネジメント
尾坂 拓也	モルガン・スタンレー MUFJ 証券	前田 栄二	SMBC 日興証券
神谷 悠介	SOMPO アセットマネジメント	宮原 直也	第一生命保険
岸本 晃知	みずほ証券	村上 宏俊	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
城戸 謙治	アセットマネジメント One	森 はるか	JP モルガン証券
栗原 智也	東海東京調査センター	森田 正司	岡三証券
佐藤 啓吾	ニッセイ アセット マネジメント	安田 秀樹	エス経済研究所
山藤 秀明	QUICK	山村 淳子	野村証券
白崎 辰五	りそなアセットマネジメント		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。